

第二十四回 利府町民劇団ありのみ公演
二〇二二年版 コロナ対策版

長根怪道百鬼夜行

「みぎは板谷、ひだりは長根、
さあ、どちらの道を往きなさる？」

利府街道伝第五話 道珍坊温泉の巻

作・演出 伊澤美樹

脚本協会登録番号等

住所 宮城県宮城郡利府町しらかし台5丁目5-6

Serenade3691@gmail.com

添書

宮城県宮城郡利府町。仙台から松島方面へと伸びる新利府街道を、しらかし台インターチェンジへ左折し長い坂道を上っていく。途中、左手に建つ利府町保健施設センターのはず向かい、賑わうコンビニの裏手に、閉湯したばかりの道珍坊温泉がある。

二〇一九年十月十二日。東日本に甚大な被害をもたらした台風一九号は、一晚にして、平安時代から続くこの利府の歴史ある霊泉を、泥の中に埋め尽くしてしまったのである。

当時、郷土歴史研究家の菅原伸一氏にご指導を仰ぎながら、道珍坊温泉を舞台に長根街道の妖怪達の話を書いていて、出来上がったばかりの脚本を携えて、上演許可をもらいに温泉に向いたのは、湯主家族が避難所から通いで片付けに来ているまっ最中のことであった。大変な時に無作法な訪問をしてしまった私に、湯主の奥様は寂しげに頬笑まれて、閉湯する、と決意を持って教えてくださった。そのときの会話が心に染みるほどに悲しく、そのまま脚本でも使わせていただいた。

これも運命かと、急いで内容を練り直し、道珍坊温泉の再興を願って書いた新たな脚本は、それでもまだ試練が足りないようであった。ようようご存知の通り、新型コロナという人知を越える災害はオリンピックを延期にして、聖火ランナーがテーマであったこの芝居を圧倒的な力でもって、上演2週間前にして、封じ込めてしまったのである。その後、一度決まった公演日はさらに変更されていく。テレビから流れるたくさん情報は日々変化し、第一波から始まり、第三波に至って胡乱な情報も相まって、脚本を書く意味すらないように思えたこともあった。

けれども、それらのことこそがこの芝居のテーマであって、この障壁が、団員一同の心を強固なまでに一つにして、上演までモチベーションを保ち続けてこられた奇跡の一因なのだと驚かされた。このコロナ渦で、誰一人欠けることなく、むしろ人数を増やして、上演の日を待ち続ける団員と、そんな中でも共に歩んで頂けるスタッフの皆様の覚悟には、心から敬服するばかりである。

多くの災害や障害が私たちの生活を脅かしてきた長い歴史を顧みれば、そこに絶対的な不条理とも言える難局を、私たちの祖先は、その時代の持つてうる限りの力で乗り越え、知恵と命を次の世代につないできたという事は、安易に推測できてはいたが、実際に体験すると真底、命をつなぐという作業がいかに生物として困難極まりないことか教えられた様に思った。不謹慎ではあるけれども、この令和元年からの災害厄災を身をもって体感することにより、利府にわずかに残る古道の跡に潜む、人々の思いが時間を超えてつながり、変わらず次の世代に伝えられてきていることを可視できたように感じたのである。

この度は、その長根街道にさまよう妖怪達に歴史の語り手をお願いしつつ、大震災、異常気象、そしてこの度の新型コロナ、からの生存という私たちに与えられた重い課題を、お芝居をご覧になる皆様と共に乗り越えていければなと、願うばかりである。

二〇二〇年十一月三〇日 伊澤美樹

スタッフ

舞台監督
舞台装置

照明

照明補助

音響

演出・作詞・作曲

編曲

振付

助演出

演出補佐

衣装・メイク

大道具

小道具

制作

総括

伊藤 祥司

伊藤 祥司

鈴木 昭彦

加藤 俊夫

伊澤 美樹

冴理

石川 茂子・渡部 由美子

眞山 智子

齋藤 しのぶ

武内 邦晴・櫻井 勤

小幡 星奈・渡部 由美子

眞山 智子

赤間 長悦

登場人物表

平野凜子	浜田から移住した先で被災に会い、青山に越してきた高校生。
湯主・富士溪（実在・70）	道珍坊温泉湯主（実在者は富士溪氏の妻）
静御前	白拍子、源義経の愛妾。長根街道入り口担当
座敷婆	道珍坊温泉の主的な妖怪。座頭転ばし担当
砂かけ婆	世話好きで座敷婆と仲の良い妖怪。コレラ山担当
見上げ入道	江戸大相撲力士の妖怪。しこ名は朝霧。その後出家して道珍坊となる。万歳坂担当
子泣き爺	人の話にちやちやを入れる可愛い妖怪。座頭転ばし担当
バウテイスタ	サンファンバウテイスタ号の付喪神。2・8次元男子。道案内担当
猫女	元猫娘。日本女子体育大学の創立者、二階堂トクヨの妖怪。八ヶ森橋担当
姑獲鳥（うぶめ）	小鶴沢の家に嫁つぎ死産して死んだ若い母親の妖怪。道珍坊温泉・上の坂担当
オザ（小沢優太）	東京オリンピックピックリ府サポーター学生ボランティア委員会委員長
アイ（後藤愛）	ボランティアメンバー。しつかり系
イズミ（永瀬泉）	ボランティアメンバー。おっとり系
ウツチ（神宮寺勇子）	幼くして死んだ子どもの魂
たたりもつけキョ	幼くして死んだ子どもの魂
たたりもつけユウ	幼くして死んだ子どもの魂
たたりもつけアン	幼くして死んだ子どもの魂
たたりもつけユメ	妖達とは一線を画しながら暗躍する妖怪。各シーンで登場。
目玉親父	源頼朝の正室
北条政子（砂かけ婆）	源義経の兄
源頼朝（目玉親父）	朝霧（のちの道珍坊）の師匠
丸山親方（目玉親父）	日本女性で初めてメダルを手にしたオリンピック選手
人見絹枝	コレラ山での砂かけ婆の夫
カツ子の父親（ぬらりひょん）	コレラ山での下りてくる男・姑獲鳥を運ぶ寡黙な男
男1（目玉親父）	
男2（ぬらりひょん）	

慷慨

東日本大震災から9年。石巻で被災し妹を失った凜子は、仮設住宅の閉所に伴い、母親と共に利府青山の中古住宅に引っ越してきた。

石巻では引きこもりがちだった凜子だったが、利府に越してからは友人に恵まれ、東京オリンピック利府サポート学生ボランティア委員会に所属して、副委員長を務めるなど、明るい性格を取り戻しつつあった。ところが、幼い凜子が写る震災時の写真が起因となり、2020年の東京オリンピックの聖火リレー走者の推薦を受けたことから、委員会内でずれが生じ、再び引きこもる生活が始まりかける。

そんな折、利府にある古い温泉で凜子は数々の妖怪と出逢う。利府を悠久の昔より縦断し、多くの歴史に翻弄された忘れられた古道、長根街道を妖怪達と百鬼夜行するうちに、本来の自分を取り戻していく。

しかし、令和元年10月12日の台風17号で、心の拠り所であった道珍坊温泉が水害で閉鎖され、心が折れかける凜子であった。が、妖怪達との交流を通して、長根街道で起った数々のドラマを体験するうちに、心は大きく成長を遂げていた。見事に立ち直った、聖火リレーの日、元気に走っていく凜子の姿を笑顔で見送る、ボランティア委員会の仲間や、妖怪達の姿がある……予定であったが。

新型コロナウイルスのため、一年延期

聖火リレー直前、中国武漢から発生した新型コロナウイルスにより世界は未曾有の危機に晒される。一年後、聖火リレーは行われることになったが、凜子をはじめ、ボランティアメンバーは高校を卒業し、それぞれの進路が別れてしまった。リレー選手に抵抗とこだわりを感じていた凜子であったが、パンデミックを経験した上で、改めて妖怪達と辿った長根街道の歴史を思い返し、一年前とは違う選択を見いだす。

その手には亡き妹が遺した片方の手袋が届けられていた。

目次

1. 追分に佇む静御前 令和元年9月	長根街道と板谷街道の辻付近・役場裏…1
2. オリンピック利府ボランティアメンバーと凜子	役場1階会議室…3
3. 凜子と妖怪達の出逢い	道珍坊温泉…8
4. 二つの街道 追分の静御前と凜子とバウテイスター	街道辻（役場の後辺り）…21
5. 見上げ入道と凜子とオザ	沢乙公民館裏の万歳坂…27
6. 湯主と凜子とアイ	道珍坊温泉…34
7. 長根街道の悲しい歴史 砂かけ婆姑獲鳥猫女座敷婆と子泣き爺	コレラ山と青山郵便局前…38
8. 新型コロナウイルス到来 バウテイスターと凜子、妖怪再び	被災した道珍坊温泉…57

もつけたちの数え唄

ひふみよ いむなや こともちろらね
しきるゆゑもわぬ そをたほくめか
うおるにさりへて のますあせえ ほれけ
ひふみ ゆらゆら ひふみ ゆらゆら
ゆらゆらと ふるえ

道珍坊追分

ひふみ よ く 二二三 寄せ来るる 黄金の波に 漕ぎ出す小舟は宝船
とふ すがこも よめい どうぐ
十符の菅菰 嫁入り道具
お馬に揺られて長根の道で 見渡す九門の長者原
おや おん
親のご恩も返さぬうちに
みちを進めば 藤原様に みちを戻れば鎌倉様へ
とつ たいわ おつるさわ
嫁ぐ大和の小鶴沢
二二三 ゆらゆら 二二三 ゆらゆら ゆらゆらと揺られ

姑獲鳥の子守唄

ひふみよ、いつむつ 　ななやつこのつ、十符の里
明日はご新造 鬢のかんざし玉響に
チャカポコチャカポコ、おんまが揺れる 揺れりや島田も乱れ髪

姑獲鳥と座敷婆の子守唄

ひふみと数えりや 米つぶ増える 米つぶ増えれば ねずみが走る
ねずみが走れば 猫めが喜ぶ
ちゆうちゆうちゆう にやあにやあにやあ
泣いてる子は誰だ

バウテイスタの唄

我が名はサンファンバウテイスタ。
日本初のガレオン船
支倉常長親方様よ、波の間に間に涙散る
目指せ、ローマよ、イスパニア。慶長遣欧使節団。
「洗礼者・聖ヨハネ」とはこの私

舞台となるのは長い街道である。その街道の入り口は辻になっている。

道の先に佇む白拍子の女、静御前。舞台に明かりが点くとすつくと立ち上がり、歌と舞を始める。

そこに華やかなアニメの風体の武士がやってくる。

静御前 ♪ しづやしづ しづのをだまきくり返し 昔を今になすよしもがな♪

パウテイスタ 静御前、いつも変わらずお美しい。

静御前 付喪神ではないか。ここに来るのは久しぶりじゃの。親方様に令和元年のご挨拶か？

パウテイスタ 御前。我が名はパウテイスタ。又の名を「洗札者・聖ヨハネ」。支倉常長公に仕えし日本初のガレオン船、サンファンパウテイスタ号である。

静御前 横文字並べても、この日本じゃ、物に付く化け物はみな妖怪じゃ。

パウテイスタ 化け物！ ああ、親方様がお嘆きになるわ。ならば静御前。そなたはどのような化け物か。

静御前 私は我が夫、義経殿が通られたこの長根街道と、頼朝が通った板谷街道の辻を守りし追分の妖怪じゃ。・・・して、何用か？

パウテイスタ 実はなあ、最近、海の向こうから不穏な気配が漂ってくるように思えてならぬのだ。

静御前 かつては椰子の実。昨今はハンゲル語のペットボトルと相場は…

パウテイスタ にはしては大きい。

静御前 ゴジラ・・・(ガジラ もしくは、We call him ゴジラ)

パウテイスタ にはしては渡辺謙（もしくは石原さとみ）が見当たらぬ。

静御前 …… 古来より、災いは海の方よりやってくるもの。

パウテイスタ 私が巡った海の方の方は、活気があり文明は高く、豊かな国々ばかりであったのだが。

静御前 して、それを報告に支倉常長殿のメモリアルパークに参られるのか？

パウテイスタ 親方様も成仏して久しい。今宵は道珍坊温泉に参る。

静御前 ならば、板谷街道では着かぬな。義経殿も選ばれた、長根街道へ続く道を行かれよ。桃色の道ぞ。ささ…。

パウテイスタ ああ、そのつもりだ。（行きかけて）静御前。分かっているが義経殿はもどるまい。奥方と共に生れた女子おなごもろとも殺された。もう、お前様がここに立ついわれはない。

静御前 付喪神。お前が港に立つように、私もまた辻に立ち、魔が入って来ぬように見張っているのだ。

パウテイスタ このままそこには、吉野の里から御前が来た事を、義経殿は未来永劫気付くことはないのだぞ。

静御前 未来永劫か。未来永劫、わらわは利府の辻神にて、この利府の地を守るただの化け物じゃ。さあ、もう行け。付喪。

パウテイスタ 道珍坊の婆達が寂しがるよ。

パウテイスタ 去る。

静御前 ♪吉野山 峰の白雪 ふみわけて 入りにし人の 跡ぞ恋しき♪

SE…雨の蕭々と降る音。OL…暗転。

SE…現代の町中の喧噪 舞台下上手に役場のプレート。舞台上に板付きウッチ、オザ。下にアイ、イズミ。

舞台上下に明かり オザの側には委員会の立て看板。 利府役場の1階講義室。利府で行われる東京オリンピックサッカー

競技の際に活動するべく、近隣の高校生によるボランティア団体が設立され、その説明会が終わった模様。

34 イズミ えー、それってやばくない？ 知ってた？

35 アイ 知るわけないじゃん。地震の時ってまだ小二だよ？ ニュースとか見る？

36 イズミ 見るよ。聞かないけど。

37 アイ 浜田の保育所からずっと凜子と一緒にだったんだよね。わたし。

38 イズミ なのになんで知らないの？

39 アイ 途中から学校に来なくなって、そのまんま引越したんじゃないかな。

40 イズミ 凜子って石巻で被災したんだっけ？

41 アイ あ、ほら、ここにも載ってる。「手袋をトーチに替えて。少女は今、聖火ランナーへ」 これ、凜子でしょ。

42 イズミ 超かっこよくない？！

43 オザ (立て看板の紙を見ながら) 実にかっこいい！！ 東京オリンピック利府サポート学生ボランティア委員会。

44 イズミ 言い終わる頃にはオリンピック終わってるわ。

45 ウッチ そうだよ、オリンピック委員会、終わったんだよ。早くネタ↓新しい利府ジャスに行こうよ。何？ この写真？

46 オザ ボランティアの仕事って何だろうなあ。通訳か？ いや、プレスの手配か？ あれ？これ。(凜子の写真を見て)

- 47 ウッチ
ぶりっこ小学生。海外プレスの心を射止めて一躍有名人。何これ？
- 48 オザ
お前らやめるよ。
- 49 イズミ
それって凜子のことなの？
- 50 オザ
もう8年も前だろう。まだ残ってたのかよ、そんなもん。
- 51 ウッチ
石巻のアイドル？ 今度は笹かま握ってよ、もえもえ。何これ？
- 52
凜子、部屋に入ってくる。
- 53 凜子
決まりました。利府学生ボランティアのお仕事は、散歩中の犬の飼い主に、ふんの回収袋を配る・・・
- 54 アイ
凜子！
- 55 凜子
何見てたの？
- 56 アイ
違うの、何でもない・・・（スマホを隠そうとする）。
- 57 イズミ
凜子いいなあ。私もアイドルしたかったあ。
- 58 アイ
イズミ！
- 59 ウッチ
「被災地を駆け抜ける悲劇の聖火ランナー女子高生凜子さん。」
- 60 イズミ
やっぱ、かつこよすぎ！
- 61 オザ
凜子、ごめん。違うんだ。あの・・・。
- 62 アイ
違うの、あの。
- 63 凜子
違うの・・・そういうことだよ。
- 64 凜子
凜子、部屋を飛び出していく。

- 67 アイ・オザ 凜子！
- 69 アイ 待って！（オザに）あんた知ってるんでしょ。教えてよ。
- 70 イズミ 私も知りたい。
- 71 ウッチ 私も。
- 72 オザ ……俺、凜子に聞いたことあるんだ。
- 73 アイ 何を？
- 74 オザ 妹亡くしたって言ってたろう。
- 75 オザ以外 うん。
- 76 オザ その写真で凜子を持っている青いのって、妹がしてた手袋なんだ。
- 77 イズミ この青いの、手袋か。（スワイプの所作）
- 78 オザ 手袋握って泣いてたら外国の記者に勝手に写真撮られてさ、それが賞を取ったとかで、凜子まで取材を受けたことがあったんだって。
- 80 アイ 勝手に撮って勝手に載せたってことでしょ。被災者のプライバシーってないわけ？
- 81 ウッチ でもさ、これ、いい写真じゃない？ うん、賞取るのわかる。（涙）
- 82 イズミ どっから目線。え？ 泣いてる？
- 83 アイ だから賞を取ったってことだね。
- 84 オザ それからずっと学校に行けなくなったって。中学でも友達いなかったみだし。
- 85 アイ え、凜子が？ 超明るくていい子じゃん。うちら友達だと思ってるし。

- 86 オザ
利府じゃこの記事、知ってる人少ないかもな。当時は、テレビの取材とか見たことなかったしな。
- 87 イズミ
芸能人は見たかった。
不謹慎です。
- 88 アイ
そっかな。こっちだって大変だったのに誰も来ないってなに？ って私ずっと思ってた。
- 89 ウッチ
だって、わたしらよりひどい被害の方々がたくさんいますから。って親が言ってたし。
- 90 アイ
それだよそれ。分かるんだけど、みんなおんなじこと言ってたよね。
- 91 イズミ
東北の人は辛抱強いとか優しいとかいい人とか言われてさ。
- 92 ウッチ
みんな我慢してたんだ。大人も子供も。
- 93 オザ
家族死んでも、家流されても、もっとひどい人がいるって言われるから、うちらみたいに被害が少ない所は、ひたすら小さくなって遠慮してさ。
- 94 アイ
乗ってきたね。
- 95 イズミ
（スマホを見ながら）勝手に取材されて勝手に写真撮られて、有名になったって、また勝手に取材受けて。
- 96 アイ
それでも怒れなくて、もっとひどい人がいるからってまた言わなくちゃいけないって。
- 97 オザ
せっかく利府に越してきて楽しくやってたのに
- 98 アイ
聖火リレーに招待されたら、写真のせいにされてさ。
- 99 ウッチ
また言われるんだよ。
- 100 イズミ
この写真のお陰で震災の悲惨さを理解してもらえれば嬉しいです。なんて。
- 101 オザ
・・・言えない！
- 102 みんな

104 ウツチ

凜子、辛すぎだわ。

105 アイ

全員覚醒いたしました！

106 オザ

了解！ みんな、凜子探しに行くぞ！

107 みんな

おーっ！

108

それぞれ凜子の名を叫びながら部屋を出て行く。暗転。

このシーンの年代は現代だが、令和元年十月十二日の台風十九号被害前なので、道珍坊温泉は営業中ということになる。

* BGM アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」テーマソングのカラオケ

たたりもつけ達場 丸いちやぶ台で妖怪達が座敷婆を中心にお茶を飲んでいる。

たたりもつけ達 ♪ バ、バ、バババの婆あ。昼も座敷でグーグーグー。楽しいな。楽しいな。座敷婆は、パートも亭主ない！

バ、バ、バババの婆あ。みんなで歌おう、バババの婆。

バ、バ、バババの婆あ。一日温泉お茶飲んで。血糖値。コレステロール。お婆は死なない、病気もなんにもない！ ♪

座敷婆 たたりもつけども！ 私はね、寝てるんじゃないの。日々、妖怪の老後と、ここ道珍坊温泉の将来について考えてるの。

ここからみんな大騒ぎ

砂かけ婆 座敷ババア、大変じゃ！ 道珍坊温泉はじゃらんで星4つつ。沢乙温泉が星4.7！ あいつらにだけは負けたくないのにいい。

猫女 砂かけ婆、そりゃさ、こっちは宿泊してないもの。しょうがにやいんじゃないの。ねえ、子泣き爺。

子泣き爺 隠れ家的温泉だからね、そんならいでいいかもね。沢乙の露天風呂もわしは嫌いじゃないけどさ。猫女は入ったことあるう？

たたりもつけ ♪ バ、バ、バババ！ ♪

座敷婆 ああああ、やかましい！

もつけユメ 大好きな婆あば。これむいて。

座敷婆 あらあら、なあに？ これはなんの果物さ。

砂かけ婆 分かっているくせに、言わせたいだよ。言ってみてくれ。

もつけユウ

梨だよ。

もつけキョ

梨食べたいよう。

もつけアン

梨むいてよう。

座敷婆

来たあああああ！ 梨？ あら、なし？ 今回は早いねえ。もう出番かい？

(ここからアドリブ) ここにあるのに、梨、なん

ちゃって。

もつけユメ

その場の妖怪、もつけも含め全員、だっふんだ。

他のもつけ

いたったた。油断してた。みんな、上の溜め池に帰るよ。
めまいがするうう。お腹が痛い。痛風だ。歯が抜けた。眉毛が生えない。(コンドロイチンかグルコサミン) って効くの？
たたりもつけ、それぞれが以上の台詞を言いながら退場。

子泣き爺

(だっふんだでひっくり返ったまま) えーんえーん。

座敷婆

子泣き爺、おめえも歳だなや。また腰やったのか？

子泣き爺

グスグス。(鼻をすすったり腰をさすったりして起き上がる)

猫女

あ、また子泣き爺、泣かせたにや。

座敷婆

違うわい。ほら、おめえも梨食え。

砂かけ婆

そうだ、猫女。ちやくんと預かってきたよ。お見合い写真。マッチングアプリじゃないから、安心おし。

猫女

いやだっ。もう、いいってば。

砂かけ婆、袋からお見合い写真を複数取り出す

砂かけ婆

この間まで猫娘だったのが、いつの間にか猫女になっちまって。今に、猫ババアになるぞ。わしらの仲間入りも近い。

猫女
それは死んでもいやだ。

子泣き爺
もう死んでる……。 (どつき)

砂かけ婆
これはな、朱の盤って言ってな、人間なんか顔見ただけで死んでしまうそうさ。

猫女
顔の大きさが身体の半分じゃん。今流行の筋肉付いてるのいないの？

砂かけ婆
でいでいらぼっち。ぼっちってくらいだからな、若いぞう。しかも富士山運べるわ、秋田の湖は埋めるは、えらいマッチョだ。おま

けに映画俳優じゃ。

猫女
俳優？

砂かけ婆
ああ、何年前前にスタジオズブリからオファーがあつてな、おののけ姫って映画に出たんだよ。すげえべ？ これにすつか？

猫女
ええ、身体が葛餅みたいでキモい。

座敷婆
猫女。話が来るうちが花だぞ。ツンデレキャラもその歳じゃあ、ただの更年期障害だぞ。

猫女
にやあああああ〜！！

*そこに道珍坊が登場

道珍坊
ごっつあんです。はあ、はあ。

猫女
今、相撲の取り組み終わつたばかりみたいだにやあ！

道珍坊
稽古していただごわす。そしたら、その……

座敷婆
見上げ入道は朝霧って、立派なお相撲さんだったのになあ。

道珍坊
溜め池でたたりもつけが……

座敷婆
あいつら、まだ騒いでいるのかい。全くやかましい奴らだ。ほら、お茶飲め。

道珍坊

違う違う。たたりもつけど、溜め池で・・・

砂かけ婆

もつけど達を集めて相撲でも教えてくれるのかい？

道珍坊

違う！ もつけどたちが、女の子を・・・

砂かけ婆

さては、好きな女子でもできたのか！

猫女

え、うそでしょ、きゃーきゃー、早く言ってよおお。

道珍坊

違う！！ 道珍坊の溜め池で、女の子がたたりもつけどと姑獲鳥うぶめにからまれてる！

座敷婆

何だつてえ？ 人間か？

道珍坊

うっす！

座敷婆

そりゃあ大変だ！ みんな、行ってきてくれ。（みんなに）

*座敷婆以外の妖怪が退場しかけると、そこに凜子が姑獲鳥うぶめの赤ん坊を抱っこして。姑獲鳥は座敷婆の数え唄を唄いながら、

ふらふらと舞台上に登場する。下半身が真っ赤な着物を着ている。*

SE・・・新生児の泣き声

姑獲鳥

♪ ひふみとかぞえりや、米粒増える、

米粒ふえれば、ネズミがはしる

ネズミが走れば、猫が喜ぶ

ちゆうちゆうちゆう にゃあにゃあにゃあ 泣いてる子はだあれ？

猫女

姑獲鳥！

凜子 重い。重い。助けて。重いよ。

姑獲鳥 ちゃんと抱いておくれよ。私の可愛い赤ん坊。落としたり容赦しないよう。

凜子 いやあああ、助けて。手から離れないの。助けて。重くてもう無理！。

*子泣き爺、急いで凜子の腕から簡単に赤ん坊を取り上げ、あやすとほどなく赤ん坊が笑う。

SE…赤ん坊の笑い声

猫女 大丈夫？

凜子 あ、はい。すみません。あの。(猫女の顔を見て) きゃあ〜〜！

猫女 ショック！ (手鏡) ねえ、砂かけ婆、やつぱりさっきのお見合い写真、見ようかな。

凜子 砂かけ婆？・・・きゃああ〜〜！

回りの妖怪達を改めて見て大騒ぎ。そのままそこに座り込んでしまう。

砂かけ婆 姑獲鳥、よつぼど怖がらせのだろう。

姑獲鳥 違うよう。もつけ達の寝床のさあ、道珍坊の溜め池があるでしょう。その堤防にこの子がふらふらとやってきてさあ、さめざめと

泣くのよ。さめざめと。

もつけユメ ねえねえ、あの子は誰かに似てるよ。誰だろうなあ？

もつけキョ 分かった！ 姉ちゃんに似てるんだよ。姉ちゃんかい？

もつけユウ バカだね、娘に似てるんだよ。お前は娘だろう？

もつけアン よく見てご覧よ。わしの嫁にそっくりだ。会いに来てくれたんだね。

もつけユメ かあちゃん？。かあちゃんじゃねえが？ ほらな、きつと来るってオラ、言ってたべ？ かあちゃん、おらだ。母ちゃん。

もつけ達 (それぞれに) かあちゃん、かあちゃんっ！ 姉ちゃんだよ、姉ちゃんだ。

娘だよ！ 娘だよ。 嫁だよ、嫁だつて。

猫女 シャーツラップ！ この子は人間の女の子。お前たちの家族じゃないよ。お口にチャックだよ。

砂かけ婆 猫女は元女子校の体育の先生でね、留学してたもんだから、時折外国語が混じるのさ。化け猫にしちやあ字があんだろ。

凜子 化け猫おおお！

子泣き爺 姑うぶめ獲鳥。ほら、寝たよ。(赤ん坊を姑獲鳥に渡して)

姑獲鳥 わあ、助かったあ。今日はずっとぐずっていたの。さすがは子泣き爺ね。

凜子 子泣き爺くく！

砂かけ婆 わしらは妖怪でね。普通はわしらの事なんか見えないし、わしらだつて、ちよつかいなんか出さないんだけどね。

凜子 ひいいいいい！

砂かけ婆 大丈夫、なにも悪さしないさ。むしろ、たたりもつけたちは、あんたを助けたんだよ。

もつけユメ おら達、たたりもつけなのさ。死んだ子どもの妖怪だよ。この人、危なかったんだよ。

もつけキョ うん、落ちそうだった。

もつけユウ うん、泣いてた。

もつけアン うん、悲しそうだった。

もつけユメ あんた、死にたいって言ってたよね。

座敷婆 おやおや。

姑獲鳥

あの細い堤防の先に立ってふらふらしてれば誰だって助けるよ。赤ん坊は重しになったでしょ。

座敷婆

大丈夫だよ。誰も何にもしないよ。みんなあんたを助けたかったんだよ。

姑獲鳥

座敷婆、久しぶりのお客さんだね。また行くんでしょ。

座敷婆

ニーズにお応えするのが、われら妖怪ってもんだよねえ。

姑獲鳥

よっしゃ。さあさ、もつけちゃんたち。沼にお帰り。あんたらに百鬼夜行はまだ早い。

凧子

百鬼夜行？

もつけユメ

百鬼夜行に連れてってよ。そろそろいいじゃん。

姑獲鳥

お前達、この姑獲鳥姐さんの言いつけが聞けないのかい！

ここで姑獲鳥、中に「鬼滅の刃（カキメシ）」の禰豆子（ねずこ）の真似をしたたりもつけに。流行の歌のまね

姑獲鳥

血鬼術、爆血っ！ はあくうっせえ、うっせえ、うっせえわっ！

座敷婆

正しい日本語をいなさい！ お静かに！

もつけ達

きやあああー！でたあああー！

満足した姑獲鳥はそのまま

もつけ達、大騒ぎをして退場。

座敷婆

あんた、名前は？

凧子

平野凧子です。

砂かけ婆

高校生？

凧子

利府高校の3年生です。

砂かけ婆
で、何であんな危ない所をふらついていたの。

凧子
死のうとかそういう意味じゃありませんでした。役場から走ってきて、ぼーっとしてて、気付いたらあそこにいたんです。

座敷婆
何か辛いこともあったのかい？

凧子
大した事ではないんです。私、元々は浜田に住んでいたんですけど、家の事情で引っ越してしたんです。高校で幼なじみとまた一緒になれて凄く嬉しかったんですけど、みんな変わってしまった感じがして。

姑獲鳥
あ、分かる！ ずっと一緒にいる友達同士と話合わない時、なんだか辛いよね。

凧子
そうなんです！ 共有してない時間なんて三年くらいなのに、時々、他人以上に遠くに感じる事があって。

子泣き爺
それってさ、新しく思い出を積み上げていくしか方法がないんだよ。そして積み上げた時間が、離れていた時間を超えたとき、お互いの知らない時間が愛おしく思えるようになるんだよねえ。

姑獲鳥
子泣き爺、ユーチューブでカウンセリング、生配信したらバズんじゃない？

猫女
で、凧子ちゃんは、どこから引っ越してきたの？

凧子
母の仕事の都合で石巻や松島や塩釜を・・・

不意に付喪神パウテスタ、凧子の背後に現れて。

パウテスタ
なあにいい、伊達班の港を転々となされた！ さては遣欧使節団のお仲間でごさるかあ！

凧子
きゃああああ〜（以後凝視のまま）

パウテスタ
♪我が名はサンファンパウテスタ。日本初のガレオン船、支倉常長親方様よ、波の間に間に涙散る

目指せ、ローマよ、イスパニア。慶長遣欧使節団。「洗札者・聖ヨハネ」とはこの私♪

凧子
・・・素敵・・・。

砂かけ婆

(砂をかけて) はい、そこまで。凜子ちゃん。これは物に付く妖怪、付喪神です。船が妖怪になったというレアなタイプですね。

凜子

支倉常長さんでしたら宮城の偉人として、歴史で習いました。

パウティスト

親方様が郷土の偉人とな？ あんた、素晴らしい。素晴らしいぞ。名を凜子と言ったか？ 私をパウティストとお呼びください。

座敷婆

おい、付喪神。つくもがみ

パウティスト

パウティストだ。

座敷婆

パウテスタ。

パウティスト

パウティスト！ サンファンパウティスト号のパウティスト。

座敷婆

テークアップ(湯飲み茶碗を見せて)もデズニーも、これでちゃんと通じるわ！

パウティスト

ちなみに私の仲間がデイズニーシーにおるがな。

座敷婆

それでなんだ、パウチスタ。今日は何用じゃ。

パウティスト

パウティスト！ 実は最近、海の向こうより不穏な気配を感じるが多くてな。8年まえの震災とはまた違うのだ。

凜子

待って下さい。何の話ですか？ 私、今生きてます？ 今度は何が起こるのおく？ もう帰りたい。(大泣き)

座敷婆

ああ、悪かったね。いきなりすぎたよ。さあさあ。まずはここに座ってお茶をお飲み。ほら、みんなも。(皆が座ってから) いいかい。大事なことはね、道順を間違っただけじゃないってことさ。まず凜子さん、ここがどこだかわかるかい？

道珍坊温泉の看板を見つけてさせられて。

凜子

え、温泉？ ここは温泉なんですか？

道珍坊

道珍坊温泉がわからない？！

座敷婆

わからないからこそ、わたしらに逢うことができたのかもしれないねえ。

砂かけ婆 私たちはね、この利府にずーっと住んでいる妖怪なんだよ。

姑獲鳥 ずーっとね。(ツツコミはいる)

猫女 大抵は生きている時になじみの深かったこの長根街道にいるけどね。

道珍坊 百鬼夜行してるでごわす。

凜子 百鬼夜行？

砂かけ婆 昔っから鬼や妖怪って街道を群れ歩くって習性があつてねえ。

座敷婆 人が行き交う道を見つけると集まって歩きたくなくなっちゃうの。

子泣き爺 ほらね、意味もなく家を飛び出して歩き出すじゃない。こんぐらいの年寄りって。

座敷婆 徘徊と違うわ!! (強いツツコミ)

子泣き爺 ええーん、ええーん。

パウテイスタ 私が生きてた頃は、妖怪達に会わないように、服に経文を唱えたり、音を鳴らしたり、火を灯したりして歩いたものだったけどね。

子泣き爺 死んだふりをするとかね。

猫女 熊と違うわ!! (強いツツコミ)

子泣き爺 ええーん、ええーん。

座敷婆 どおれ、じゃあ一緒に百鬼夜行にいつてみるかね。あ、みんな静かに! 湯主の爺さんが来たよ。

湯主の富士溪さん登場 凜子だけ動ける。

M: 町中の喧噪

湯主 なんか騒がしいと思ったらやっぱりだ。あんた、受付してないよねえ。

凧子 受付？ こちらのみなさんに助けていただいて。そのままがってしまつて……。あれ？おばさん達？

湯主 ここは道珍坊温泉。私は湯主の富士溪だよ。こんにちは。

凧子 こんにちは。

湯主 ふくん。あんた、奥の座敷に上がったの？

凧子 ごめんなさい。受付するつて知らなくて。さっきまでここにいたんです。おばあさんとかおじさんとかお兄さんとか……

湯主 入浴料は1時間500円。

凧子 えっ！ すみません。500円ですか。（あわてて財布を出そうとする）

湯主 あんたはいいよ。たまにいるんだよ。奥座敷にまつすぐ上がっちゃうお客さんが。そういう人からはお金は取らないことにしてるんだよ。最近じゃ珍しいね。

湯主、母屋の方に退場仕掛けて

凧子 あ、あの、おじいさん、さっきの方々はここの常連さん、というか、その、おじいさんのお知り合いなのでしょうか？

湯主 その常連さんつてのは私には見えんがね、私は、生きている人間。あなたと同じだよ。お名前は？ 学生さん？

凧子 平野凧子です。高校三年生です。

湯主 そう。凧子さんか。きつとご縁があるのだろうね。ゆっくりしていきなさい。何かあったら母屋にいるから。

湯主去る。妖怪、手に手に提灯やのぼり旗など百鬼夜行の格好をしてる。

凧子 どこにいったんですか？ 突然いなくなるから。

座敷婆 さあさあ、行くよ。

凧子 え？ どこに？

砂かけ婆　だから百鬼夜行だって言っただろう。

猫女　妖怪は群れて歩くのが好きなのね。昔からそう決まっているのかにやあ。

パウテイスタ　我々妖怪と言えども、一人一人はとても弱い。だから群れて大きく強く見せるのかもな。

砂かけ婆　人間にもいるだろう。群れると強くなる馬鹿がさ。

凜子　妖怪って、本当にいたんですね。全部、水木しげるが作ったんだと思ってました。

座敷婆　わしらはね、見えもしない。聞こえもしない。それでもここにいるのにねえ。あんたの場合はここのようなだねえ。（凜子の胸、心を触って）おお、いるいる。奥の方でべそかているよ。

猫女　さあ、進もう。無くした物がきつと見つかるよ。

子泣き爺　はい、先生。

パウテイスタ　さあさあ、急ごう。出航の時刻はとうに満ちた。

道珍坊　♪歩こう、歩こう、私は元気い〜♪

砂かけ婆　テーマとしちゃあ、近いんだが、残念ながら世界観がまるで違う。

再び「ゲゲゲの鬼太郎」オープニング曲が流れる

姑獲鳥　これこれ！

一同うなずく。*にぎやかに道を歩いていく。オザ登場。湯主のふりをした目玉親父が登場

オザ　凜子お〜。凜子お〜。

目玉親父　はい、いらっしやい。

オザ　びつくりしたあ。す、すみません。ここに凜・高校生、女子なんですけど、来ませんでした？

目玉親父

ああ、来てるよ、来てるよ。今風呂に入っているよ。お代は500円。さあ、さあ、あんたも風呂に入っていきなさい。

オザ

え？ その子、風呂に入ってるの？ ごと、500円。

目玉親父

一時間以内に出なきゃだめだよ。シャンプーリンスは自前で頼むよ。はい、あっちの入り口から入って右側ね。左は女湯だから間違えちゃだめだよ。

オザ

(お金を渡しながら)ほんとに風呂に……。

目玉親父

はい、毎度！ あれ、お兄ちゃん、タオル持ってきてないの？ しょうがないねえ。俺のを貸してやるよ。(頭から外して) だ、お湯につけちゃあいけねえよ。

オザ

え、あ、ありがとうございます。それじゃ、お借りします。

オザ、悩み悩み奥の方へ退場。目玉親父、お金を大事そうにしまつて*退場。

1場と同じ景色。同じように静御前が座っている。凜子登場

静御前 ♪しづやしづ しづのをだまきくりか・・・

凜子 だ、誰。あれ？ 皆さん？ どこ？

静御前 ♪・・・くり返し 昔を今に・・・

凜子 座敷婆さーん、猫女、砂かけ婆さーん、子泣き爺さーん、えっと・・・

静御前 やかましいのう！ そなた、私を知っておるのか？

凜子 えっと、ごめんなさい。知りません。

静御前 そこ！ チツチツ、存じません。正しい日本語を使いなさい。座敷婆たちのインフォームドコンセントが足りないのよね。あらためて私が百鬼夜行の詳しい説明をして差し上げましょう。

凜子 あ、大丈夫です。

静御前 そこ！ チツチツ、けっこうです。だから、正しい日本語を使いなさい。

凜子 はーい。

静御前 そこ！ はいは短く。ハイセイコー。

凜子 ・ ・ ・

静御前 難しい。難しいよな。ダジャレは高度なお笑いであるからの。

凜子 いえ、そこではなく、ハイセイコーって・・・

静御前 布団がふつとんだ

凜子 ……

静御前 下駄が脱げた

凜子 ……

静御前 受けない……。おかしいわねえ。鉄板ネタのはずなのに……。いけない、ダジャレの講義をしてる場合じゃなかったわ。（静御前）

前はがらりと雰囲気を変えて）ここは追分、右に行きなさるか？ 左に行きなさるか？……。さあどちら？

凜子 えつと、じゃあ、左！

静御前 （懐から小刀を出して）死んでもらおうかの。

凜子 なんでええ？

パウテイスタ登場

パウテイスタ 御前。これは、凜子と言つて、あの座敷婆の肝いりだ。

静御前 ふん、こいつか……。わらわは未来永劫、利府の追分に立ち、魔が通らぬように見張る辻神となりし妖怪。元は白拍子を舞う源義

経が妻、静御前である。

凜子 知ってる！ 歴史で習いました。この道を通つて平泉に行つたんですか？

静御前 殿は、正室の郷御前と共に左の街道を行ったのだ。右は板谷街道。左は長根街道。利府本郷から、古い街道はここで二手に分かれて

いく。

凜子 あれ？ 私、道珍坊温泉にいませんでした？

パウテイスタ 百鬼夜行に出たのだから。お前も、時を、場所を、飛び越えて、我ら妖怪が染みつけたこの古道を共に辿るのだ。

凜子 どうして私？

パウテイスタ それは私たちにも分からない。たまにそんな人間がやってくる。大抵は我らと同じく、落とし物を探しているのだ。

凜子 じゃあ、静御前さんも一緒に探しに行くの？

静御前 探そうにも・・・私の失せ物は、はかなく小さすぎた。

パウテイスタ ここは追分、分かれ道。静御前はここから離れられない。

SE・FE…赤ん坊の泣き声、遠くから聞こえ始める。*政子、頼朝登場

静御前 連れて行かないで。お願い、連れて行かないで。(泣)

凜子 ど、どうしたの？

パウテイスタ 御前の失せ物は、産まれたばかりの若君だ。

凜子 え？

政子 静。産まれた赤子は男だったそうだな。

静御前 いやあ、いやあ、やめて、やめて。

政子 女子ならば生かしてやったがの。

頼朝 政子。女子だろうが何だろうが、この頼朝に刃向かった弟の子だぞ。静もろとも殺して由比ヶ浜に捨てて参れ！

政子 頼朝殿、どうか静の心を察してあげてください。御前だけは生かしてあげてください。

静御前 おのれ政子！ この子を殺すのならば私も殺せ！ この子一人をあの寂しい海辺に捨てさせはしない。

頼朝 よこせ！ 由比ヶ浜に捨てて参ろう。

凜子 やめて！

政子 これは定められたこと。違えることはできないのだ。

凜子 妹が産まれたときは嬉しかった。妹の泣き声、笑い声。全てが可愛くて、愛しかった。

頼朝 この子のうぶ声が浜をひととき賑やかにするだろう。

凜子 あの海は風が強くて、寒くて、だから、妹が産まれたらお母さんはきっと元気になると思ってた。

頼朝 海は、海。どこもみな、同じ海。

凜子 妹の仕草は可愛くて、ひょうきんで、お母さんと私はいつも笑っていた。妹が産まれてから、風は止まったの！

頼朝 それも一時。さあ、浜に捨ててこよう。

凜子 やめて。私も行く。わたしだけ残るのはいや！ 私も連れて行って！

頼朝 お前は残らなければならない。残って生き続けなければならない。

凜子 どうして？ 私を一人にしないで！

政子 お前が死んだら誰がその子を弔うのだ。泣きわめき、地を転げ回っても、お前は生きて生きて、この子の記憶を遺すのだ。

静御前 静はもう、ここから先には往けません……。

M：道珍坊追分 生唄

道珍坊の唄が始まったら妖怪たちと凜子、はける。

道珍坊船頭役でオザ女方の嫁入り姿で登場。後ろには子泣き爺が馬曳きの感じで登場。

道珍坊

♪ 一二三 寄せ来る 黄金の波に 漕ぎ出す小舟は宝船 十符の菅菰 嫁入り道具 (船頭の後、船に乗る花嫁)

お馬に揺られて長根の道で 見渡す九門の長者原 親のご恩も返さぬうちに (船から下りて、馬引に引かれた馬に乗る花嫁)

みちを進めば かまくらさま 藤原様に かまくらさま みちを戻れば鎌倉様へ とつ たいわ 嫁ぐ大和の おつるさわ 小鶴沢（花嫁役女方オザ、一人で舞う）

ひふみ
一 二 三 三
ゆらゆら ゆらゆらと揺られ♪

道珍坊、子泣き爺、オザの嫁入り衣装と角隠しを奪ってはける。裸で温泉に入っているオザ

オザ
♪ 一 二 三 三 三
ゆらゆら 一 二 三 三 三
ゆらゆら 一 二 三 三 三
ゆらゆらと揺られ

・・・はあ、気持ちいい。なんていい湯加減だ。

♪ いい湯だな。あ、ははん、いい湯だな、あ、ははん。・・・

アイ、イズミ、ウツチ登場

ウツチ
オザあ、あんた、懐かしい歌知ってるね。

アイ
きゃああああー、オザ、あんた、はだか、はだか！

オザ
きゃああああー、何よお、お前ら、ここは男湯だぞ！

イズミ
きったなっ！！ オザ、あんた入ってるの、排水路だよ！

オザ
（辺りを見渡して）え？ はあ？ （立とうとして三人に押さえつけられる）

ウツチ
狐にでも化かされたんだね。その家で水道借りて身体、洗っておいで。（上着と荷物を渡して）ほら。

オザ、退場

アイ
（シヨックで泣きながら）ウツチ、あんた手際いいわ。

女（声のみ）
きゃああああー！ 変態！

オザ（声のみ）
違います、違います。俺、騙されたんです。狐が風呂に入れて。

女（声のみ） いやあああ——変質者あ！

オザ（声のみ） だから違いますって、待って、違いますって。

ウツチ 逃げよう！

アイ、イズミ うん！

アイ、イズミ、ウツチ、退場 *暗転

換気タイム

辺りは明るく目の前には坂が見える。時間帯は午後から夕方だが、異空間なので薄暗い感じ。

凜子は眠っているようだ。そこにオザがやってくる。

オザ 凜子！ 凜子！ 大丈夫か？（凜子を揺する）

凜子 ひやつ！ オザ？ あれ？ 何か臭う。

オザ え？ かなり流したんだけどな。それより、具合でも悪いのか？

凜子 うううん。元気だよ。私、なんでこんな所に寝てんの？

オザ 凜子。俺も経験済みだ。これはな、狐らしい。

後ろからのつそりと道珍坊がやってくる。

道珍坊 凜子、大丈夫？

オザ うわああああ。だ、誰？ え？ お相撲さん？ なんで？

凜子 見上げ入道さん！ ありがとう。大丈夫だよ。

オザ 凜子、お前、相撲取りの友達いんの？

凜子 最近できた。これは友達のオザ。一緒にオリンピック何か協議会の仲間。

オザ 東京オリンピックサポート学生ボランティア委員会・・・

凜子 （くい気味でつつこむ）の委員長。私が副委員長。

オザ ど、どうも。あの・・・

道珍坊　ごつつあんです。元関取朝霧でござす。

オザ　（凜子に）おい。利府に相撲取りなんていたのか。

道珍坊　凜子、オザも一緒にこの坂を登ろう。ここはバンゼイ坂って言うんだ。

凜子　バンゼイ坂？

道珍坊　万歳坂って事。あんまり坂がきついからお手上げって意味で万歳坂。私は坂に住む妖怪だよ。

オザ　妖怪だよ？　妖怪だよ？って言った？　凜子。

道珍坊　最初は小さい坊主だが、坂の下から見上げると、俺はどんどんおつきくなる。びっくりして見ているうちに、見上げすぎてびっくり返ると言う、それはそれは恐ろしい妖怪だ。

オザ　恐ろしいよ・・・。

凜子　可愛い！

オザ　妖怪って何？　凜子。凜子。

凜子　もう！　私だってよくわかってないの。臨機応変にいかないと誰もついてこないよ。東京オリンピック利府サポート学生ボランティア委員長。

オザ　お、おおう。そうだな、副委員長。分かった、俺もついて行く。

凜子　よし！　それで見上げ入道さんって、本当に相撲取りの妖怪なの？

道珍坊　ずうつと前、江戸相撲の時代の朝霧と言う関取だった。師匠は丸山といって、とても強い人だった。だけどね、今の名前は朝霧でも見上げ入道でもなくて、道珍。

オザ　なんかものすごく身近で聞いたことある。

道珍坊 相撲をやめて、出家して名を道珍坊と改めてね、日本中を行脚して最後に利府に辿り着いた。

オザ 凧子、ちよつと待つて。見て！ ほら、何か変！

凧子 あれ？ 背が高く見えるよ？ あれ、あれ？

オザ うわわわわわ、

凧子・オザ ばんぜくくくしい！ （*二人で仰向けに倒れる）

凧子・オザ さか・・・。

SE…相撲場所の太鼓の音、稽古場の声、音。

辺りが暗くなり、雰囲気は江戸大相撲の感じ

道珍坊 親方。不撓不屈（ふとうふくつ）の精神で、力士として不惜身命（ふしやくしんみょう）を貫く所存でございます。

丸山 朝霧。今日呼んだのはな、お前の弟弟子の貴が岩の事だが。

道珍坊 あいつは人の話を全く聞かぬので厳しく叱ってやりましたが。

丸山 タニマチに貴ヶ岩に肩入れしている者がいて、ひどくお怒りでなあ、部屋の世話はせんと言ってきた。

道珍坊 貴ヶ岩め、タニマチ連中に告げ口しやがった。なんと姑息な奴だ。さらに厳しく叱ってくれるわ。

丸山 朝霧！ 待つて、朝霧！

道珍坊、オザと凧子を置いて走り去る。

オザ 凧子って、お母さんと二人で仮設いたんだろ。

凧子 うん。

オザ お父さんもなくなったの？

凜子 違う。私が小さい時に出て行った。

オザ え？ なんで？

凜子 今時、小舟一艘で魚獲ったって生活できないもん。今まで捕れていた魚が捕れなくなって、回りもどんどん漁師をやめた。違う仕事に就けばよかったのに。

凜子 網元の家の婿に入ったのに最後は小舟一艘でしょ。今思えば居づらかったのかもね。風の強い寒い日、海から上がったきり、帰ってこなかった。船の水槽には一匹も魚が入ってなかった。

オザ お母さん、大丈夫だったの？ 病気なんだろう。

凜子 ここがね。（胸を指して）今はだいたいいいけど、そんな時はかなりヤバかったと思う。夜になると母さんは私たちを抱いて泣くんだよ。風が怖いって。

オザ 風？

凜子 でもね、妹が笑うと風が弱くなって、妹がよちよち歩くと、風が温かくなるんだ。母さんがそう言うの。私もそう思ったんだあ。妹と三人で浜辺を歩くとね、海は緑のベルベットみたいに柔らかかったし、砂浜は低反発のマットレスみたいに気持ちよかった。

オザ お、それ、いいねえ。人をダメにするクッションみたいだ。

凜子 あはは、そう。でも、妹が死んだ途端、また風が吹き始めた。

オザ 凜子。

凜子 前よりも、ずっとずっと強かった。

道珍坊 親方。ご恩を仇で返すような事になって申し訳ありません。

丸山 相撲をやめてこれからどうするのだ。お前の里は陸奥^{むつ}国の漁村だったな。家族も待っているだろうに、帰ってやったらどうだ？

道珍坊 郷里を捨てるようにでてきたのです。今更、妻や子どもの前にどの面下げて帰ることができますでしょう。曲げを落として僧となり修行の旅に出るつもりです。

丸山 朝霧。女房子供に会いたくないのか。

道珍坊 それはっ！・・・いえ、会いたくありません。

凜子 仮設も期限があるんだよ。だから青山の親戚の家を借りて住んでるんだ。

道珍坊 それでね、凜子ちゃん、江戸からずっと托鉢しながら、ここに着いたんだよ。ほら、道珍坊が見えた。

丸山、オザ 退場。 入れ違いに座敷婆。 猫娘、バウテイスダ、砂かけ婆、子泣き爺、姑獲鳥登場

座敷婆 お帰り。どうだい、凜子、百鬼夜行は。楽しいかい？

凜子 私、百鬼夜行してたんだっけ？

猫女 だいぶ、進んだようだけどにゃあ。

座敷婆 この道珍って托鉢の僧が綺麗な湧き水を見つけたのさ。それがここ。

砂かけ婆 いい香りの旨い水でね。それに傷んだ身体を浸したら、すっかり治ってしまったのさ。

道珍坊 利府のみなさんはこんな私にとっても優しくしてくれたでござす。それでこの湧き水を沸かして、助けてくれた方々に振る舞ったら旨

いだの、元気になったって、評判になって、寄ってたかって立派な温泉場を作ってくれたのでござす。

凜子 それで道珍坊温泉って名前なのね。

道珍坊 そう、でござす。

凜子 温泉にしちゃあ、変な名前だなんて思ってたの。じゃあ、次は絶対にお風呂に入らなくっちゃ！

座敷婆 そうしておくれ。この温泉は身体だけじゃないよ、心も癒やせるからねえ。

SE…オルゴールの夕焼け小焼け。風の音、だんだん強くなっていく。

凧子 あ、夕焼け小焼けが鳴ってる！ 5時じゃん。もう帰らなくちゃ。

砂かけ婆 利府町は夕方五時になるとこれが鳴るんだもんなあ。

姑獲鳥 今度来たら、静御前と風呂に入ってやってよ？

凧子 いいけど、なんで？

姑獲鳥 さあ、おふろに入りましたよ♪ るるるん。

子泣き爺 あ、ドラえもん。静ちゃんがおふろに入ってるよ。

姑獲鳥 え？ 誰？ のび太さんね、もう、のび太さんのエッチい〜！

砂かけ婆 あいつは静ちゃんのご先祖さ。

凧子 なんで？

姑獲鳥 源みなもと静しずかだから。源みなもと義経よしのぶの妻だもの。スタンドバイミー！

凧子 え！ それで源なお？すごい、藤子不二雄〜。

姑獲鳥 でしょう？

バウテイス タ 座敷婆、風が・・・。

座敷婆 何だかイヤな風だね。さあさあ、もうお帰り。

姑獲鳥 10月なのに、台風みたいな風だね。

砂かけ婆 また遊びにおいで。

凜子

はい。ありがとうございました。

妖怪一同

さよなら〜。(それぞれ)

*凜子を見送って暗転。不気味な風の音だけが残る。暗転

暑いほどの10月のとある日 道珍坊温泉にやって来たアイ。遅れて凜子がやってくる。

凜子 待った？ すんごい汗だよ。

アイ うううん。真夏みたいに暑いね。

凜子 もう10月なのにね。

アイ 凜子！ 改めてもう一回謝らせて。この間はホントごめん。

凜子 オザにも聞いた。気にしてないよ。事実は事実だもん。

アイ この間の17号の台風の後から、凜子、全然委員会にも参加しないからさ、心配してたんだ。

凜子 強風で千葉が大変だったじゃん。うちの母さん、気圧が変わったり悪天候になると調子が悪くて早く帰らなくちゃなんなかったんだ。

アイ そうなんだあ。凜子、大変だね。

凜子 うん、大変だよ。

アイ あのをさあ、やっぱりリレー走って欲しい。

凜子 え？

アイ 凜子がああ黄色のユニフォームで聖火持って走るの见たい。

凜子 为什么呢。

アイ 私、色々調べただけでさ、やっぱり聖火リレーの選手ってカッコイイよ。

凜子 アイ、走りたいの？！

アイ だって、オリンピックを日本でするってそうそうないじゃん。だから、選手は無理でも、私が大人になったとき、一七歳のオリンピックを思い出せる何かがあればなってちよつと思つたの。

凜子 アイ、やばいよ、かっこいいよ。そっか。一七歳のオリンピックか。

アイ でもね、やめた。

凜子 なんて？

アイ ボランティア委員会がね、リレーに出るより最高の一七歳の思い出になりそうだから。

凜子 え、みんなでふざけてばかりで、立派なことやってないのに。

アイ 私、イズミもウッチもオザも凜子も大好きなんだ。みんなといるのが楽しいんだ。

凜子 ……アイ、ありがとう。

湯主登場。

湯主 いらっしやい。風呂？ あれ、あんた、この間の奥座敷のお客さん。

アイ 奥座敷のお客さんって、凜子、何だか通だね。

湯主 そうそう。凜子さんだ。お友達も一緒かい？

アイ 後藤アイです。こんにちは。

湯主 こんにちは。今日は、どうしたの？ お風呂？ それとも奥座敷？

凜子 この間の分。やっぱり入浴料はちゃんと払おうと思つて……。500円ですよ。でも、1時間以上になつちやつてましたけど。

湯主 だからね、奥座敷のお客さんからお金を取つたら、バチが当っちゃうよ。いらぬ、いらぬ。

アイ 凜子、VIP待遇！

凜子とアイ、湯主が一緒に笑い、湯主は近くの椅子に腰を掛ける。

凜子 見上げ入道の道珍坊さんって、ここを見つけた人だったんですね。

湯主 そうなんだよ。あのお相撲さんはね、ここに住むようになって、ここからずっと上った所にエネオスがあるだろ。そこに土俵作って子ども達に相撲を教えていたんだよ。

アイ 利府にフィギュア選手だけじゃなくて相撲取りもいたの？

湯主 江戸時代の話だよ。こどもたちに礼儀作法も教えてくれるもんだから、鶴巢や吉岡の方からも習いにきていたって言い伝えがあるよ。

凜子 吉岡って、大和インターの方の吉岡？

湯主 そうだよ。小鶴沢を通って、塩竈神社の元朝参りも道珍坊の前を通っていったよ。

アイ 小鶴沢ってどこ？

湯主 ここから上って下った所に、しらかし台インターがあるでしょ。そこを右にまっすぐ行くと、丹勝ゴルフ場があるのわかるかい？
アイ 夢実の湯に行く途中だよ。

湯主 そう。そこを右に曲がって1キロくらいいくとね、道の右側に今も一里塚が立ってて、そこに「長根街道」って立て札あるから今度見てご覧。そこから先が小鶴沢だよ。

凜子 ずいぶん山の中を通る道だったんですね。

湯主 そうねえ。板谷街道より長根街道の方が険しいし難所続きだったけど、距離は短いから早く目的地に着く。だから、昔から無理をしなくても長根を通る人が少なくなかったね。この道珍坊温泉からエネオスまでの坂は、事に険しくてね、その途中にあるコレラ山まで、死んだ者達を荷車に乗せて登っていくのにはだいぶ難儀していたねえ。流行病にかかるのはいつも身体の弱い年寄りと、子ども

ばかりだったよ。コレラで亡くなると、死体から病気がうつらないように、この先の山に運んで焼いてしまうのさ。上に溜め池があるだろう。水の底にはコレラで亡くなった人達が静かに眠っているんだよ。

湯主、アイ退場。凜子だけ舞台に残る。

照明…夜の森の中の明かりにOL 陽転

SE…雨。風。不気味ではなく悲しい雰囲気。

*薄暗い頃、道珍坊の脇の坂を上っていく簡素なリヤカー。中にはコレラで死んだ子どもが寝ていて上にムシロがかけてある。それを押す者、引く者、深々とほっかむりをして、口には布を巻き付け、無言で車を押していく。雨が降っていて道はぬかるみ、車が滑って難儀している。

SE…木の車輪がガタガタしたり泥に入ったりする音。

父親
もつと押せ！ 何してんのや！

砂かけ婆
押ししてる。だけど、どうにもなんねえ。溝に輪っかが、まぶれてしまったんだおん。

父親
こんなちっちゃけ子どもば乗せてるだけで、坂登れねえわけねえべ。

砂かけ婆
行きたくねえって、行きたくねえってこの子が言ってるんでねえべか。

父親
何言ってる！ もう死んだんでねえが！ 動かなくなったのお前も見たべ？ 早く押せ！

SE…雨の音強くなっていく。

上から同じような格好をしている男が降りてくる。

男
どこのもんだ。

父親
赤沼だ。

男
なんだ、赤沼からご苦労なこった。だけど、今日はもうおしめえだ。これ以上燃せらんね。雨足が強くなってきたからな、薪がし
けって煙りもでねえって。

砂かけ婆

ありや、それは残念だったな。

父親

ほんでも引き返せねえがらな！

男

上は死人でいっぺえだ。くせくてくせくてたまんね。

父親

ほんでも置いて行かねばなんねえから。

男

うわ。雨水流れてきたべや。コレラ菌が入ってるかもしらねど。まあ、勝手にしろや、オラは知らね。

男、逃げぬまうにムシロの方を嫌悪しながら走り去っていく。

父親

家には。家督も次男も。まだ乳飲んでる赤ん坊までいるんだ。女子の一人や二人、又作ればいいべ。(溝から輪っかを持ち上げようとしながら)

砂かけ婆

ほんでも、家出る時、まだ生きてたべ。(ムシロを開けようとする)

父親

あんではもう死んだも同じだ。(開けようとしているのに気付いて)ムシロ開けんな！おめえまでうつたらどうする！

砂かけ婆

ほんでも、へたすつと熱下がって寝てつかもしゃね。そんなこともあるって聞いたど。

父親

ばかか、おめえは。そつたらことして暇あつたら、その辺の乾いた山砂すくってこ！溝にかければ車輪が動くべ。抱いては登れねえからよ。

何かの拍子にムシロの中の子供が動く

砂かけ婆

はっ！カツ子、カツ子、カツ子お！

砂かけ婆、ムシロを開けると中に女の子が寝ている。

砂かけ婆

カツ子、生きてんだべ？カツ子、まだ生きてるべ！カツ子。

女の子、かすかにかすかに動く。

砂かけ婆 カツ子、あんだ、まだ生きてる、カツ子生きてるってば、ほれ、まぶたが動いた。だめだ、あんだ、まだ生きてるのに捨てらんね。

男、強引にムシロをかける。

砂かけ婆 な、何すんだ、見殺しにすんのか、カツ子ば、殺すんか！

父親 ……

砂かけ婆 カツ子、帰るべ、カツ子、

父親 止めろって言うてるのがわがんねえか！

砂かけ婆 カツ子。カツ子……。

父親 (泣く)

砂かけ婆 (父親が泣いたことに驚きながら共に泣く)

父親 早く、砂かけろ！ 早くしろ！ 早くわだちから抜けだすど！

ひふみの数え唄。イズミ、ウツチも一緒に登場。イズミ、ウツチのキャラはたたりもつけと同じ。回りに飛び交うたたりもつ
けの光。静に立ち尽くす凧子を包み込む。

♪もつけたちの数え唄 (ウツチ・イズミ)

ひふみよ いむなや こともちろらね

しきるゆるつもわぬ そをたはくめか

うおゑにさりへて のますあせえ ほれけ

ひふみ ゆらゆら ひふみ ゆらゆら

ゆらゆらと ふるえ♪

男はまた車を上引張つていこうとする。砂を集めかけるの繰り返し。二人とも無言。唄終りに車がわだちから出て又動き出す。 雨の音。

1の歌終わり、イズミ、凜子に水色の手袋渡す。ウツチとイズミ、凜子の側に寄りそう。

凜子
妹、生きてたんだよ。手を握っていたの。だけど、手袋が大きすぎて、妹の手が抜けていっちゃった。私の手に残ったのは片方だけだった。

道珍坊の数え唄を歌いながら道珍坊登場。雨は止んでいて、前のシーンとはつながりはない。戸板を担いでいる男ふたり。戸板の上には血だらけで死にそうな妊婦の姑獲鳥。

男1
道珍坊さくん、道珍坊さくん。小鶴沢から来たさ。難産で死にそうさあ。水ばくれるさ。

奥から道珍坊温泉の女将として座敷婆が出てくるが、湯主の富士溪氏設定でははない。

座敷婆
ご苦労さんです。(水を出す) どうした、大丈夫か。

難産でなあ、産婆じゃあ手が付けられないってんで、急いで塩釜に向かうところだ。

ありやあ、これは大変だよ。あんた、しっかりおし！ (死産していることに気付いて) こりやあ……。

姑獲鳥
助けてける……おら、初めてのお産だよ。よぐわがんねんだ。なんか、おがすねんだ。

座敷婆
ああ、そうか、そうか……。

姑獲鳥
生まれだのが？ 生まれだが？ 何で泣き声、きこえねんだ？ なあ、なして？

座敷婆が前掛けで死産した赤ん坊をくるんで寝ている姑獲鳥の隣に寝せる。

座敷婆
めんこい女子のわらすだ。でもなあ、逆子の初産はまず助からねえんだ。

姑獲鳥
(赤ん坊を抱きしめて泣) どうすべ、どうすべ。おつかさんもおとさんも、おらいのうちのもんも、ほんで、紫耀造さんも、みんなみんな楽しみにしったんだでば。どうすべ、なあ、どうすべ。おら、どうしたらいいべ。

男1　また、生れてくるべ、なんぼでも産んだらいい。

姑獲鳥　なして？　この子はこの子だけだべ。代わりはねえべ。下がなんぼ生れてもおらの初めての子どもはこの娘だけだ。

座敷婆　もう一人の男を呼び止めて。

座敷婆　ちよつとあんた、頼んだよ。

男2　な、なにを頼まれんだ。

座敷婆　できるだけ早くこの赤ん坊、小鶴沢の家に連れてってやり。

男2　死んでるんだべ。やんだよ。

姑獲鳥　なして？　やめてけろ。病院さ行ったらなおつかもしやねえ。

座敷婆　あのな、もうとつくにこの子は生きてる肌でねえ。この子の顔がまだ綺麗なうちにおめえのおつかあや旦那に見せてやれ。

姑獲鳥　ほんなら、おらもけえるよ。

座敷婆　おめはだめだ。ひどい出血だ。すぐに病院だ。ほら、なにやってんだ。

男2　やっぱり！

座敷婆　小鶴沢じゃあ、孫の葬儀の支度を早くしてやりたいだろうよ。あの年格好じゃあ、嫁いで初めての子どもだったろうに。

男2　かわいらしい夫婦でな、仲良くて、みんなにからかわれていたよ。

座敷婆　旦那はどうした？

男2　亭主は大郷に呼ばれてちよつど留守だったんだよ。

座敷婆　じゃあ、なおさら赤ん坊ば、早く家さ連れて帰ってやれ。

男2　夜にもなるってのに、死んだ子抱いて長根街道行くのは気が進まねえよ。

座敷婆　いいから大事に抱いてお行き。この子に免じて狐も狸も守ってくれるよ。

姑獲鳥　もう、お別れけ・・・。

座敷婆　そうだな。死んだ子抱いて病院には行けねえべ。

姑獲鳥　・・・うん。わがった。(子どもを渡そうとして)あ、あ、もう少しだけ、抱かしてけねがな。

座敷婆　・・・それじゃあ、もう一人、男衆を手配してくつから、その間だけでも一緒にいたらい。

男1　おれ、菅谷の方に聞きに行くがら。

男2　おれは本郷の方さ行ってくる。

座敷婆　頼んだよ。急ぐんだよ。あんだ、なんか着替えるのを探してくるからね。

舞台には荷台の上の姑獲鳥と少し離れて凧子。砂かけ婆の子供にもその夫にも、そして姑獲鳥にも、もつけがもたらす命の光が優しく光っている。

姑獲鳥　あんたはだあれ？

凧子　凧子です。

姑獲鳥　いくつ？

凧子　十七です。

姑獲鳥　おらど同じだあ。

凧子　そうなの？　すごいね。もうお母さんなんて。

姑獲鳥　死んじまったけどな。

凧子　あ、ごめんなさい。

姑獲鳥

この子はこの世でよ、風ばいっぺ、吸ったんだべがなあ。

凜子

風……？

姑獲鳥

田んぼの匂いや、泥の匂いや、おらの匂いが混ざってる風を、ちゃんと吸ったんだべが。炊けたご飯の匂いや、薪を燃す匂いや、牛小屋の匂いば、かげたんだべが。……そうだ、あんたにお願いがある。この子さ名前つけてやってける。おらは学がねえからよ。

凜子

私が？

姑獲鳥

死んだ子はやんだが？

凜子

そうじゃなくて、そんな大事なこと引き受けていいのになって。

姑獲鳥

この子の名前を呼んでやりてえのさ。おら、この子のおっかちゃんだもの。一度もおっかちゃんに名前呼ばれねえで、墓さへえるなんてせつねえべ。

凜子

うん、わかった。……田んぼ、泥、炊けたご飯、薪……恵……めぐみ……めぐみ！

姑獲鳥

めぐみ、めぐみ、いいなあ、お天道様のお恵、雨のお恵、山や海のお恵み。神様が恵んで下さるものみんな、おらの娘が独り占めだなや。(微笑)めぐみ。うん、いいな、あんだ、ありがとう。めぐみ。いがったなあ、めぐみ。いい名前つけてもらって、いがったなあ。あの世さ行っても、お釈迦様にめぐみって呼ばれるんだなや。めぐみは幸せだなあ。

凜子

よかった、気に入ってもらえて。

姑獲鳥

めぐみ。死なせてしまつてごめんな。かあちゃん、生み方初めてだったから、下手くそだったんだべな。ごめんな、めぐみ。

凜子ともつけ、姑獲鳥を取り囲む。

姑獲鳥の数え唄 (イズミ、ウツチ)

♪ひふみよ、いつむつつ　　ななやつここのつ、十符の里

明日はご新造 鬢びんのかんざし玉響たまゆらに

長根の谷に、ご縁も涙も捨てて行く

チャカポコチャカポコおんまが揺れる 揺れりや島田も乱れ髪♪

曲の途中で、姑獲鳥、静に息を引き取る。座敷婆登場。その異変にすぐに気づき、確かめるが駄目だと分かると、赤ん坊をちゃんと抱かせ、姑獲鳥の手を合わせてやり、手を合わせる。

幼い猫女登場。夕方の雰囲気。

猫女、手を合わせたままの座敷婆の背中に話している。姿は妖怪のままの年格好だが、ここの設定では小学校三年生くらい。はい、今塩釜の病院から尋ねてきました。お父ちゃんはもう大丈夫です。助けていただき、ほんとにありがとうございました。さようなら。

座敷婆、そのまま。猫女、帰りかけて凧子に気がつく。

猫女 こんにちは。塩釜から来ました。ここは長根街道の通り道だから、たくさんの方が道珍坊温泉にお世話になるんですね。

凧子 そうみたいです。塩釜に住んでいるの？

猫女 いえ、私の在所はここからずっとずっと北に行った所にある三本木です。

凧子 三本木・・・？

猫女 この間、父ちゃんが小鶴沢の家の宴会に呼ばれて、酔っ払って転んで大けがしたんです。小鶴沢ってお医者がないので、塩釜の病院に運ぶことになったんですが、そのとき、ここのご主人にすんごくお世話になったんです。

凧子 それでお礼に来たの？

猫女 はい。母ちゃん、泊まりがけで看病してまして、ほんと父ちゃん、寂しがり屋だからなんですけど、おかげさまですっかり元気になりました。

凜子 よかったねえ。

猫女 退院したらまたみんなで三本木に帰ります。ところで、あのう、それ、なんですか？

凜子 あ、これ？ 手袋。

猫女 これが噂の手袋かあ。やっぱりオラが知ってるのと違って指がある。どうやって作るんだべ。オラが見たことあんの。ここが全部つながってるやつだ。いいなあ、これ。何でもつかめるもんなあ。

凜子 (笑) してみる？

猫女 ほんとか？ いいのが？

凜子 (笑) どうぞ。

猫女 わあ、何だべ、こつたらぬくいのかや。これだば、どこまでも走れるでねえが。(しげしげと見て温もりを感じて)・・・あ、ごめんなさい。ありがとうございます。

凜子 もういいの？

猫女 はい。ありがとうございます。

凜子 いいえ、どういたしまして。

猫女 では、さよなら。

猫女、走り去る。入れ替わりに下の方から子泣き爺が座敷婆を背負ってよたよたと上ってくる。

子泣き爺

母ちゃん、ひどい嵐になるぞ。今日で無くては駄目なのか？

座敷婆
約束したからなあ。

子泣き爺
炭焼き小屋の爺さん、本当に親父が生きてる時に世話だったからって言ったのが？

座敷婆
あ、ああ。まあな。そんなことを言ってたな。

子泣き爺
あの親父が人に恩を売るなんてオラ、なんぼ考えても信じらんねえ。

座敷婆
ほら一杯清水があつと。

子泣き爺
(水を飲む) はあ、うまい水だなや。よし、母ちゃん、おらに負ぶされ。母ちゃんの足じゃ急がんねえ。

座敷婆
なあに、ここから座頭ころばしまでは平らな道だ。オラの足でも大丈夫だ。

子泣き爺
いいから負ぶされ。ほれ。ジャガ崎は昼でも暗いからな。早く行かねえと夜道になる。

座敷婆
作治、おめえに負ぶさるなんてなあ、ありがてえなあ。

SE…秋の山道を踏んで歩いていく音。

座敷婆
作治。ちよつと止まってけろ。

子泣き爺
なんだ、母ちゃん、シヨンベンか？

座敷婆
違う。見てみる。ここから見える山ば見てみる。

子泣き爺
今更なんだよ。

座敷婆
綺麗だなあ。あの青い山は泉いずみが嶽たけだ。あの先の定義山じょうぎさんにお詣りに行きてがったなあ。

子泣き爺
なんだい、母ちゃん。はつちや森から見える景色なんて見飽きているべ。

座敷婆
嵐の前なんだなあ。雲の流れが早いよ。ほれ、夕日に染まった雲のや、切れ目から日が射して、極楽にいるみてえだなあ。

子泣き爺 行ったこともねえくせに分からねえべ。母ちゃん、秋はすぐに暗くなる。もう行くど。

SE：再び秋の山道を踏んで歩いていく音。先ほどより険しい山道。子泣き爺の息切れがどんどん荒くなる。

座敷婆 ……作治。もういい。ここで下ろせ。

子泣き爺 大丈夫だ、母ちゃん。もうすぐ母ちゃんの言ってた炭焼き小屋があるんだべ。

座敷婆 作治、いいからここで下りるど。ここさ、座れ。

子泣き爺 大丈夫だつて。その爺さんが米貸してくれあつて言っただべ。早く行くど。家で子ども達がみんな腹空かして待ってるべ。

座敷婆 作治。いいからここさ座れ。

子泣き爺 どうしたよ、母ちゃん。

座敷婆 頼みの牛が全部死んでしまつてはもうどうにもならん。

子泣き爺 わかつてるよ。

座敷婆 もうすぐ赤ん坊も産まれる。身体の弱い次男には薬もあてがわねばなんねえべ。

子泣き爺 わかつてるつて。

座敷婆 その櫓の根元におつきなムロがあつから、中を見てみる。

子泣き爺が仕方なげに言われたとおりすると炭俵が入っている。

子泣き爺 なにすや、この炭俵。炭ば喰えつていうのか。

座敷婆 お前は相変わらず馬鹿だなあ。ちゃんと中見てみ。

子泣き爺 あ！これ、米だ、米でねえが、こんなにたくさん。何したんだ。その炭焼きのじいさんにもらったのが？

座敷婆 そんなじいさん、とつくの昔におっちんだわ。実はな、おらの虎の子、売ったんだ。

子泣き爺

虎の子って、まさか、おっかあが小せえ時に死んだって言う、おっかさんの形見かい？

座敷婆

まあな。おらのおっかさんの実家は大きな庄屋だったらしいが、物がよかつたんだべな。結構売れたのさ。それでもみんなに教えつと、すぐにおやじの酒に代えられてしまいうだろう。だから秘密にしてたんだ。ほれ、銭っこも、もらえただ。

子泣き爺

すげえな、おっかあはやつぱりすげえな。

座敷婆

これで牛を買うこともできるべ。

子泣き爺

ありや、だども、どうやって運ぶべ。おっかあを負ぶって、米ば抱いたらおっかあはずり落ちる。

座敷婆

おめえはやつぱり馬鹿だな。作治。おらはここに残るんだ。

子泣き爺

おっかあこそ呆けたか？　とうとう雨も降ってきた。なんぼ10月って言っても、もう夜は寒いど。米ばムロに入れておいて、まずおっかあを家さ運んでから、また取りに来つから大丈夫だ。

座敷婆

米が先だ。この雨じゃ、せつかくの米も油紙通して濡れてしまいうべ。

SE：風、特に雨足が強くなる。

子泣き爺

おっかあ。ここは長根街道一番の難所、琵琶ころばしだど？　座頭や、琵琶法師が転げ落ちていくって場所だぞ。嵐が来てみる。おっかあも一緒に転げ落ちるべ。

座敷婆

そんなときや、そんなときよ。昔はあとのもんみんな託して、喜んでお山さ行つたって言うぞ。

子泣き爺

ばば捨ては昔の話だ！　本当にあつたかどうかもわかんねえ。

座敷婆

どこでやってねくても、おらがやるのよ。

子泣き爺

やんだ、おらやんだ。絶対やんだ。母親死なすなんて、死ぬのわかつて置いて行くなんてそつたらことやんだ、やんだ。

座敷婆

情けねえやつだ。子ども4人で一人は病弱。来春にやあ、また赤ん坊が出てくる。なのに牛も馬もいねえ。どうするよ。作治。

子泣き爺

(泣き出す) いやだ、いやだ。おおおん、おおおん。おっかあ、おっかあ。

座敷婆

あのお親父も死にしまった。無事に葬式も済ませたしな、これでおら、何の心残りもねぐなつた。いいが、作治がオラを置いて行くんでねえよ。オラはこっから滑って落ちるんだ。

子泣き爺

やめてけろ、やめてけろ。そんなのおらやんだ。オラは絶対にいやだ。

座敷婆

作治よ。長く生きてると、どんだけ考えても、どんだけ働いても、どうにもならねえことが起るもんだ。座敷婆、子供のように泣きじゃくる作治を子供をなだめるようにさすつてやりながら。

座敷婆

♪ひふみと数えりや 米つぶ増える

米つぶ増えれば ねずみが走る

ねずみが走れば 猫めが喜ぶ

ちゆうちゆうちゆう にやあにやあにやあ

泣いてる子は誰♪

雨、どんどん強くなる。

座敷婆

作坊、達者で暮らせ

SE…もつけの数え唄と姑獲鳥の数え唄合唱曲流れる。

子泣き爺

おっかあ、おっかあ、おっかあああ。

SE…道珍坊温泉の数え唄も聞こえてくる。

* (座敷婆崖から飛び降りる。) 凜子、飛び出して、座敷婆の手をつかむ。子泣き爺、凜子とは交えず、米俵を抱えて泣いている。もつけユメ、飛び出して座敷婆に代わり凜子の妹となり、手を伸ばす。

子泣き爺の泣き声に重ねて

凜子 手を離さないで、しっかり握り返して。誰か、誰かあ。

もっけユメ お姉ちゃん、手が抜ける。

凜子 もつとがんばって、ほらそっちの手もこっちに寄こして。誰かあ。

もっけユメ でき、ない、よう。すべる。

凜子 いいから、がんばって、手を絶対離さないで。今、助けが来る。

もっけユメ 寒いよ。

凜子 ほら、手を伸ばして、そう、ほら。早く。

もっけユメ お姉ちゃん、お姉ちゃんも落ちる。

凜子 お姉ちゃんは大丈夫。いいから、捕まって。しっかり。誰か、助けて、助けてええ。

もっけユメ もう寒い。疲れた。（あきらめて、力を緩める）

凜子 駄目、絶対だめ。誰か、誰かあ。

もっけユメ お姉ちゃん、大好き……。 （魂が凜子の側に寄り添って）

凜子 だめええええええ。（落ちる光の玉）

SE…ものすごい雨、風の音。輪唱が少しずつ弱まっていく。舞台はどんどん明るくなっていく。一人残る凜子。

秋晴れの良い天気。湯主が登場。舞台は再び道珍坊温泉だが、台風19号のせいで被災している。

湯主 凜子さん。（うつむいている凜子に声をかける）

凜子 （夢から醒めたように辺りを見回し、水害を見て驚いて） 何があったの…。

湯主 先日の台風でね、水没しちゃったよ。全部水がここに集まってきちゃってね。

凧子 うそ。

湯主 ここね、湖みたいになってしまって、屋根の近くまで水に浸かっちゃったんだ。

凧子 うそ。

湯主 ボイラーも終わり、風呂窯も終わり、私たちが住んでた母屋も終わり。あんたが通った奥座敷も終わり。道珍坊温泉は千二百年の歴史を遂に閉じることになるんだよ。

凧子 うそ……。(泣く)

湯主 どんだけ考えても、どんだけ働いても、どうにもならないことって起るもんなんだねえ。

凧子 また大切なものを無くしちゃった。

湯主 まさか俺の代でここが閉まるなんて思ってもみなかったよ。……ほんとにいるんな事があったんだ。悲しいこともあったけどね、楽しいこともそりゃあたくさんあったんだよ。あんたは、あの連中の最後のお客さんになったのかなあ。俺よりあの婆さんの方がこの主みたいなんだからさ。

凧子 おじいさんも見えるんですか？

湯主 子どもの時だけね。今となっては本当にあった事なのかも分からないけど、連中と長根街道を提灯持ってさ、歩いた記憶があるんだよ。きつと夢なんだろうなあ。ちつとも怖くなくて、愉快だったなあ。

凧子 私もまた会いたいです。

湯主 道珍坊温泉ってね、冷泉だから沸かさないと温泉にならないだろう。昔はさあ、燃料がなけりや、しよつちゅう閉めるしかなかったんじゃないかなあ。そのたんびにここを覚えてる人が、懐かしがって誰かに伝えて、誰かがまた誰かに伝えてるうちに、人やお金や燃料が集まってきてさ、再開を繰り返してきた温泉なんだろうなあ。

凜子　そうなんですか？

湯主　だからね、今度もさ、そんな風になるんじゃないかなって思うんだ。

凜子　私、まだお風呂に入っていないませんでした。

湯主　大丈夫。源泉の水が今もちゃんとして湧いている。あんたもどうか忘れないうちにおくれ。源泉さえあれば、道珍坊温泉はきつとまた復活するさ。じゃあ、元気でね。

間。湯主の気配が無くなる。湯主すらも妖怪のごとく。

凜子　（凜子、手ですくって水を飲む）おいしい。

猫女　ちよつとお待ち。先生、そんなに早く歩けないんだから。

猫女登場

猫女　やっと追いついたよ。あんたは足が早いね。うくん、ちよつと筋肉が足りないかなあ。お名前は？

凜子　猫女さん。あの平野凜子って前も・・・

　　今度は遠くから委員会メンバーの凜子を呼ぶ声が、聞こえる。

猫女　あら、うちの生徒達じゃあないわね。

　　台詞と共に順々にみんな登場する。メンバーは猫女を認識できない。

アイ　あ、いたいた。凜子お、探したよ。

オザ　いよいよ来年、2020年の夏に開催される、東京オリンピックの聖火リレー、詳細が発表になったんだよ。

イズミ　今日、ホームページで公式にね、

オザ　東京オリンピック利府サポート学生ボランティア委員会・・・

ウッチ

(オザの台詞をくって)の書記として、プリントアウトして届けに来たよ。ほらここに凜子の名前もあるよ。東京オリンピックのパンフなどを渡し、メンバー達、疲れて座り込む。そのパンフを猫女、見つけて。

猫女

これは何？

凜子

ああ、これは、来年のオリンピックの聖火ランナーのパンフです。

猫女

オリンピックって言った？

凜子

言いました。オリンピック。

猫女

み、見せてくれる。

凜子

どうぞ。

辺りの雰囲気は怪しく一変する。

人見絹枝

先生、オリンピックに出たいのです。絶対絶対メダルを獲ります。

猫女

ねえ絹枝。どんなオリンピックでもその重圧は想像を絶するよ。私はね、人見絹枝が、女子体育の見世物になって欲しくない、だけなんだよ。

凜子

私は、見世物みたいに、あの写真の女の子って言われるのがいやでした。

絹枝

私を馬鹿にした人、私を化け物って呼んだ人達を見返したい思いはありました。

猫女

オーマイガ！ そんな思いで走って、絹枝、あんたは幸福なの？

凜子

幸福？ 復興オリンピックという名の聖火リレーで、被災地と被災者が登場して、世界に感謝して走る。それは私の幸福なのかと悩みました。

絹枝

日本のみなさんに、世界のみなさんに、私、人見絹枝がどんな風に走るか見て欲しいんです。

猫女 女性に体育教育など必要ない、と言ってる連中を尻目に、あんたは走り抜くのね。

凜子 はい。平野凜子は生き残り、17歳となり、大好きな友達もできました。

絹枝 私はアムステルダムオリンピックで初の女子日本代表になります。でも、

凜子 だけど、その一步一步は、被災地としての道を、被災者として走るのではありません。まして私が何かの象徴でもありません。

絹枝 私は、

絹枝、凜子 私は、自分のために、自分の足で、自分が幸せになるために走ります。

絹枝 ゴールも覚えていないくらいに。

凜子 ゴールしちゃったらつまらないから。

猫女 痛快じゃないか。何かあったらこの二階堂体育塾にすぐに帰っておいで。いつでも待っているからね。

絹枝 先生。ありがとうございます。

猫女 そして、いつか私と一緒に教壇に立って頂戴。女子体育は女子の手で！（人見絹枝はける。間）ねえ、凜子。どうしてあなたが生き残ったのか知ってる？

凜子 分かりません。

猫女 ただの偶然。それだけよ。凜子。足元を見てご覧。あなたの歩く道には、いつもたくさんのヒントが落ちている。あなたに会えてよかった。私は二階堂トクヨという者です。覚えておいてね。

凜子 先生、ありがとうございます。行ってきます！

猫女、凜子に手を振り見送る。辺りが明るくなる。

アイ 凜子！ もう、また先にいっちゃったよ。

オザ　　おおい、凜子、待てよ。俺らもボランテアに応援に、頑張るぞ〜！お前ら、早く来い〜！

アイ、イズミ、ウツチ　は〜〜〜〜い。

四人とも去る。誰もいない舞台に照明が複雑に変化する。

SE…遠くから「中国武漢で発生した新種のウィルスは・・・。」「ダイヤモンドプリンセスの船は本日接岸し、物資の捕球をします。」「館船の客を乗せたタクシー運転手が感染していることが判明しました。」コレラ三つのワードがはいるよう、ニュースやワイドショウぼく生でざわざわしてくる。

SE…朝から深夜までのニュースと情報番組のオープニング曲が重なって鳴っている。

ニュースの音や声が流れてきて、だんだん、ヒートアップしていく。

その向こうで「パブリカ」が流れ、サビを踊るもつけどが、ラストでその指に止まる人はもういない。凜子も止まらない。

アナウンスの声「2020東京オリンピック、来年に延期すると、バッハ会長が名言しました。」

凜子、脱力して、聞いている。手には1年経ってしわになったオリンピックのパンフ。バウテイスタがそつと登場。

バウテイスタ 久しぶりだったね。

凜子 ……ステイホームでしたから。

バウテイスタ 百鬼夜行が自粛のため延期になるなんて、妖怪の歴史始まって以来だって、座敷婆も言っていたよ。

凜子 私、自粛中一人で支倉常長メモリアルパークまで行ってきた。もう百鬼夜行一人でやっちゃったから。

バウテイスタ ならよかった。

凜子 なにが？

バウテイスタ 実は今月で解体されてしまうので、一緒にできなくなりました。

凜子 解体？ バウテイスタさんが？

バウテイスタ 聖火リレーで、凜子殿の勇姿を見てから解体されるはずが、順序が逆になってしまいました。

凜子 オリンピックって色んな事のきっかけになっていたからね。……バウテイスタさん。オリンピックってさ、都合の悪い事を全部浄

化しちゃうって知ってた？

バウテイスタ ほう、どうということかな？

凜子

震災前から乗り手のない漁船。入り江にへばりつくように建ち並ぶ、年寄りだらけの漁村。世界からやってくるお客様のために、震災前のモノクロの記憶がリセットされちゃったの。私たちは3月11日以前の美化のために東京オリンピックを開催しようとしてたんだよ。でもね、妖怪さん達のお陰で、私覚悟ができたんだ。理屈なんていい、自分のために走ろうって決めたんだよ。・・・それなのに、あつという間に震災はコロナにすり替わっちゃった。こんなことが起こるなんて夢にも思わなかったって、そう思ったの、二度目だよ。17年しか生きてないのに。

パウテイスタ

凜子殿。親方様が遣欧使節から帰ってくると、世の中はすっかり変わっていて、キリスト教や海外貿易は禁止になっていました。親方様は幽閉され、家はお取り潰しとなりました。夢にも思いませんでしたよ。港ではみんな喜んで迎えてくれるんだってずっと信じていましたから。それから200年後、復元された私は、再びパウテイスタとして海に浮いていたのです。楽しい時間を過ごしましたが、それもあの日を最後に終わりました。3月11日。目の前の光景は、私が生れた300年前の慶長大地震直後の世の中と全く同じだったのです。百年も生きてきて夢にも思わなかったのは、これで二度目でした。

他の妖怪も登場

座敷婆

だがな、復活したお陰でついに百年、物として生きることになったじゃないか。これでめでたく付喪神に昇進じゃ。

凜子

座敷婆さん！

砂かけ婆

本当はね、もうわしらには出番がなかったのだが、コロナのせいで全員再び登場だ。

凜子

砂かけ婆さん！ 会いたかった！ みなさん、お元気そうで安心しました。マスク手洗いうがいに三密、守ってましたか？ そうだ！ 妖怪のみなさんに、是非、聞きたいことがあったんです。アマビエって妖怪を知ってますか？ 今、すぐ流行ってるの。

座敷婆

アマビエ？ 何だか一発屋芸人みたいで妖怪としちゃあ、情けないねえ。昔からその手の妖怪はいるにはいるがね、厄災を食い止める力なんぞ無いよ。ただ、予言していなくなるだけの妖怪だ。

凜子

えええ、意味ないじゃん。

猫女

そう。しよせん、私たち妖怪に何の力もないさ。(凜子、自分の失言に気付く)

座敷婆

これじゃよ、これ。(懐から梨を出して) ここにあるのに無いなんて、まるでわしらの様じゃあないか。

砂かけ婆

だがなあ、生きてる人間は強いぞう。

姑獲鳥

長根街道をご覧よ。ずっと昔、ここに道なんてありやしなかったよ。

道珍坊

ある日、一人の人間が、山の中をかき分けながら一歩ずつ進んで行ったんだ。ふと振り返るとね、いつの間にかたくさんの人間がその足跡を辿って来るんだ。

子泣き爺

そしてそれはいつか道になる。

座敷婆

無しから梨になって、ありのみになるようにね。(梨を手渡す)

凧子

うん。

バウテイスタ

じゃあ、これでお暇するよ。

凧子

解体されたらどこに行くの？

バウテイスタ

やっと自由になれるのだ。私の意思で舵を右に左に切りながら、遠い昔、親方様と渡った海をもう一度、渡りたいんだ。懐かしい、アフリカやヨーロッパの港へ。弥生晦日やよいみせかの申の刻に通航だ。凧子殿の聖火リレーを、応援できずにすまない。

凧子

・・・私、聖火リレーに参加するのを辞退するつもりです。

突然、学生達が乱入してきて

オザ

凧子~~~~！ お前、聖火リレー出ないんだって！

アイ

凧子~~~~、私見たいって言ったよね。凧子の走る姿見たいって言ったよね。

子泣き爺

君たち、もう卒業なの？

オザ

うわ~~~~って驚く前に、相手を理解しよう。

子泣き爺　　子泣き爺です。(ぺこば　の、しゅうぺいです　の真似)

凜子　　アイ、言ってくれたじゃん。この「東京オリンピック利府サポート学生ボランティア委員会」が聖火リレーで走るより楽しい時間なんだって。

アイ　　言った！

凜子　　私もそうだった。皆と過ごした時間が何より一番楽しくて、大切な時間だったんだ。私の足元にはいつもヒントが落ちている。猫女さんがそう言ってくれたでしょ。

猫女　　言った！

凜子　　私も、オザもアイもイズミもウツチも、妖怪の皆さんも、ずっとずっと聖火リレーをしてるんだと思う。思いや願いをちゃんと次の人に届けるの。私一人じゃできないって諦めちゃだめなの。渡された人が次の人に渡す。私ができなくなったら、次の誰かが、いつかかなえてくれるから。だって、私たちもトーチを受け取っていたんだもの。

バウテイスタ　　凜子殿。私もトーチを受け取ったよ。

凜子　　バウテイスタさん、ありがとうございます。いつかまた、どこかで会ってください。

バウテイスタ　　もちろん。あ、そうだ、この間、解体作業の調査をしている時にね、舵板の隙間に、これが引っかかっていたのだ。凜子殿が持っていた手袋に、よく似ているので持ってきたのだが。

凜子　　え！

凜子に渡されたのは、海で妹と共に無くしたと思っていた片方の手袋。凜子、ポケットからもう一つの手袋を出して見比べ抱きしめる。

凜子　　ありがとう。

座敷婆　　(凜子に) よかったなあ。(バウテイスタに) バウテスタ、ご苦労さん。

パウテイスタ　パウテイスタ！　それじゃあ、みなさん、ごきげんよう。よきかな、よきかな。

パウテイスタ退場。

座敷婆　さあてと、われらで愉快的な聖火リレーでも始めようか。

砂かけ婆　コースは長根街道じゃな？

砂かけ婆、長根怪道の標柱を持って、上まで運ぶ。

静御前と、五本のトーチを携えて、たたりもつけ達がやってくる。それを一列にらんで受け止める妖怪達。二段階で引き継がれてくる。最後に凧子にトーチが渡される。

静御前　凧子、右に行きなさるか？　左に行きなさるか？

凧子　うーん、じゃあ私、この真っ直ぐな道にする。（持っていたトーチを、静御前に渡して）　どうかなあ。（座敷婆に）

座敷婆　凧子は、ずーっと、正しい選択をしてきたから、今、ここにいるんだよ。

凧子　行ってきます！

凧子、大きくうなずいて走り出す。後で手をふる妖怪達。皆口々に凧子の名前を呼ぶ。

一度、標柱の側で振り返るが、すぐにまた走り出す凧子。いつまでも、妖怪達の声が聞こえている

SE…ありのみの詩

幕